

小説

伊藤正一

岩国市
(1920～1989)



【著作】

小説集『蛇足の人生』（昭和44・白藤書店）
『錦帯橋物語』（平成元・四季出版）
『ほいとう』（平成4・叢文社）ほか

文学の創作と行政は同じだとして、両面で活躍した伊藤正一は、大正九年（一九二〇）三月五日、ハワイ州ホノルルで生まれた。学業の成績は抜群で、中学校を一年早く卒業して大学に挑戦した。学生時代から文学が好きで文学作品を読みあさり、懸賞小説にも応募して入選し、ますます創作活動に意欲を燃やす。昭和二十年（一九四五）、上海同文書院大学を卒業して帰国。昭和二十五年（一九五〇）頃から本格的な創作活動始める。同人誌『岩陽文芸』（のちに『火山群』）をおこし、戦後の混沌とした時代に新しい方向を見出すべき「ほのぼのとした」人間像を描き出した。『文芸山口』の同人となり、「補衣人」「黄色い海」などを書いて注目された。また、山口文芸懇話会では推されて会長になり、創作をしながらまとめ役として腕をふるった。

『山口県近代文学年表』（作成委員長を担当）を執筆して県下の文学の流れをつかむ一方、自ら郷土史や郷土文学を研究し、「岩国玖珂歴史物語」「市史」「錦帯橋物語」などをはじめ、数々の歴史物語を執筆。晩年には「若き日の毛利元就」という名作を残した。

昭和四十二年（一九六七）、朝枝俊輔市長が誕生し、助役に就任。行政活動の傍ら文化活動にも力を注いだ。来岩した江藤淳をして、「地方の政治家にこんな素晴らしい文学者がいたとは」と驚嘆せしめたという逸話も残っている。文人らしい斬新なアイデアで行政に取り組み、「都市問題研究会」などを立ち上げ、若者と対話しながら行政をオープンしていくことに努めた。「文学青年に政治がわかるか」という批判も甘んじて受けた。「都市作りは文学の創作に似ている。行政は住民の生活上に、創作は文章表現と構成に苦心する。だから面白い」と。また、「小説は人間探求の場である」「絵画が色で音楽が音で人生を表現するように、文学は文字で人生を表現する芸術である」。文学を指導する時の口癖であった。

言葉の繊細さを大事にする作家であり、俳句もよくした。

（文・稲生 慧）



河上徹太郎氏と 自宅にて（53歳）



錦帯橋畔
文学碑（岩国市横山）



著 作

伊藤正一 年譜		（提供・稲生 慧）	
大正9（一九二〇）年		昭和23（一九四八）年	二八歳
大正15（一九二六）年	六歳	昭和25（一九五〇）年	三〇歳
昭和9（一九三三）年	一二歳	昭和27（一九五二）年	三二歳
昭和13（一九三八）年	一八歳	昭和33（一九五八）年	三八歳
昭和16（一九四一）年	二二歳	昭和42（一九六七）年	四七歳
昭和20（一九四五）年	二五歳	昭和44（一九六九）年	四九歳
昭和21（一九四六）年	二六歳	昭和45（一九七〇）年	五〇歳
昭和22（一九四七）年	二七歳	昭和47（一九七二）年	五二歳
		昭和48（一九七三）年	五三歳
		昭和49（一九七四）年	五四歳
		昭和50（一九七五）年	五五歳
		昭和53（一九七八）年	五八歳
		昭和55（一九八〇）年	六〇歳
		昭和56（一九八一）年	六一歳
		昭和60（一九八五）年	六五歳
		昭和61（一九八六）年	六六歳
		平成元（一九八九）年	六九歳
		《没後刊行》	

3月5日、ハワイ州ホノルルに生まれる。父は岩国市御庄出身。塗装請負業でハワイに渡っていた。岩国に引き揚げて、御庄尋常小学校に入学。のち岩国尋常高等小学校に転校。

4月、山口県立岩国中学校へ入学。

3月、同校を一年早く卒業して、東京の城北予備校に入学。文学書を読みあさり、小説を書く。受験雑誌に応募し佳作入選。

4月、上海東亜同文書院大学入学。本科2年の時応召（陸軍少尉）。

9月、同大学商学部卒業。帰国。

3月、岩国興産組合理事長就任。

4月、戦後初の統一地方選挙に立候補。岩国市議会議員に当選。（市議のモラル低下を嘆いて2年で辞職）。

南陽水産株式会社取締役（昭和25年9月まで）、中国微生物研究所役員を歴任。

11月、津田弥吉市長の要請により、岩国市役所審議室長に就任。以下人事課（昭和26年）、総務課長（昭和27年）、財政課長（昭和32年）、交通局長（昭和39年）を歴任。12月、『岩陽文芸』発刊（のち『火山群』と改名。昭和26年まで5号刊行）。

『火山群』編集・発行（昭和35年）。

4月、『文芸山口』同人（昭和60年まで参加）。

4月、岩国市交通事業管理者、5月、朝枝俊輔市長誕生により、助役に就任。（昭和50年5月辞任）。

3月、『週刊時事』に5回にわたり「錦帯橋由来記」執筆。4月、「岩国地方文化人連盟」結成に参画。10月、小説集『蛇足の人生』刊行。

2月、『岩国市史』編纂委員長（執筆）。

3月、『山口県近代文学年表』（同書作成委員会代表・執筆）。6月、岩国市文化協会長（昭和57年辞任）。

12月、『錦帯橋物語』（岩国観光協会）刊行。

岩国ベンクラブ幹事。

7月、周陽物産（株）相談役に就任。助役時代から手がけていた文学協会の事業として、「創作教室」を開設。月刊『創作教室』（タブロイド版）刊行。

『岩国玖珂歴史物語』（共著、瀬戸内出版）刊行。

6月、「創作教室」の収獲作品集『航跡』（第一集）刊行。俳句教室主宰。

8月、山口県創作懇話会会長となる。（没年まで）。

2月、『航跡』（第二集）刊行。

「若き日の毛利元就」の執筆を開始。病魔と戦いながら地域の指導を続ける。

6月、『錦帯橋物語』（四季出版）刊行。12月、病氣悪化。「若き日の毛利元就」のゲラ刷りが病床に持ち込まれたが、刊行を見ることなく、逝去。

『若き日の毛利元就』（平成2年・8年叢文社）
『ほいとう』（平成4年・叢文社）
『錦帯橋物語』（平成14年・叢文社）

伊藤正一